



# 高原の風だより

2020（令和2）年10月 発行 <第19号>

## 美しい景観や豊かな自然は地域の宝

### ～景観計画の策定が必要～

木曾町では文化交流センターや温水プールが完成し、現在は役場本庁舎・防災センターの工事が急ピッチで進められている。この後、ビジターセンターやおもちゃ美術館、さらに町民相撲場の整備や木曾馬牧場拡充整備など大規模事業が計画されている。将来のランニングコストなども考え十分に町民の声を聴き、議論を深めて進めなくてはならない。

また、地域の宝であり大きな資源である美しい景観について、さらに磨きをかけるために将来を見据えた基本的な計画策定が急務になっている。

県下では景観法に基づき24市町村で景観行政団体へ移行。景観計画を策定し良好な景観づくりを積極的に進めている。



木曾馬の里から望む秋の御嶽山(昨年)

### なぜ開田高原の景観は美しいのか ～統一サインの整備～

「開田高原の景観は素晴らしいですね」とよく来訪者から言われる。なぜ美しいのか。それは御嶽山の雄姿だけではない。乱立した広告看板がなく、統一サイン（写真右）できちんと整備されていることや建物の屋根の色が茶系色に統一されていること、さらに御嶽山の眺望をさえぎるような高い建物がないことなどが考えられる。さらに田んぼや牧草地、ソバや高原野菜が作付けされた畑、そして何よりも集落全体の農村風情が大きく寄与しているのではないかと思う。

### 広告看板の禁止や建物の高さ制限～開田高原開発基本条例～

開田高原の美しい景観が維持されているのは、開発基本条例の存在も大きいと考えられる。景観条例ともいわれる開田高原開発基本条例（現在は御嶽山麓開発基本条例として、三岳地域の一部も含める）は1972（昭47）年に制定された。村内全域において営利を目的とする広告看板の禁止や建物の高さ制限、屋根の色彩の規定、さらに一定規模以上の建築や土地の形状変更を伴う開発行為に対しては村との協定の締結を義務付けている。

### 景観計画策定の必要性

### ～質の高い景観づくり目指して～

景観づくりを進めていくうえで、やはり景観法に基づき町が景観行政団体へ移行し具体的に「景観計画」を策定することが必要である。一気に町全体で行うことは無理としても、すでに条例がある開田高原で先行することも可能。将来を見据えた質の高い景観づくりを進めるためにも早急に取り組むべきと考える。



# 景観を生かした地域づくり

## ～ 景観を生かす・守る・育てる ～

開田高原では地域協議会や行政区などさまざまな団体や組織で以前から景観づくりが積極的に行われている。

また、町内の他地域でもそれぞれ地域協議会や住民が主体的に美しい景観づくりに取り組んでいる。町が美しい村連合に加盟して以来、その取り組みが一層活発になったような気がしている。

地域資源とも言える美しい景観をまちづくりに生かし、そして将来のために守り育てるのは今を生きる私たちの使命だと考えている。

町内外の取り組みを紹介しながら景観づくりの重要性について考えてみたいと思う。



左上から時計回りに、「地域づくりグループの景観整備」「早稲田の学生の美化活動」「住民による支障木伐採」「地域協議会の木製ガードレールのペンキ塗り」

### 景観づくりの教科書

### ～「開田村への提言」農村景観の保全と再生～

開田高原の景観づくりを後押ししたのは、開発基本条例とともに財団法人観光資源保護財団から出された報告書『開田村への提言』だ。「農村景観の保全と再生」と副題がつく本書は、1978（昭53）年に東京農大の高橋進先生らによって調査研究された貴重なもの。開田高原の景観づくりのバイブル（聖書）とも言える。景観づくりを進める上で教科書のようなものだ。今まで建物の建築や屋根の色彩などさまざまな提言をいただき、それに基づいて自然や歴史を考慮した景観づくりが進められてきた。

### 公共施設などの建築に伝統性

### ～開田支所など高い評価～



開田村役場（現開田支所）

開田高原では合併以前から公共施設の建築に当たっては、伝統的建築様式の切妻を用いて整備を行っている。開田村役場（現開田支所）は上記報告書でも「切妻大屋根とし、壁面を木調とするなど開田の風土に合わせたものとして注目される」と専門家から高い評価をいただいている。学校、研修センター、バス停、ゴミステーションなどすべて切妻を基調に整備している。



### 電柱や支柱などは茶ポールに ～中部電力などが協力～

開田高原では木曾建設事務所や中部電力、公安委員会などに対し、主に案内板の支柱や電柱、ガードレールなどの設置の際は景観に配慮し茶系色にしていただくように要望している。専門家の意見を踏まえてのことだが、確かに茶系色は自然によく馴染み違和感が余りない。（写真右は茶色の電柱）



開田高原で唯一の信号機。道路の拡幅改良の際、景観に配慮し茶ポールに交換していただいた。

## 他地域でも見られる好事例 ～ひよし診療所や川西集会所など～

町内の他地域でも地域の歴史や自然に配慮した景観づくりの事例が見受けられるようになっている。日義の宮ノ越にある診療所やゴミステーションなどは宿場を意識した造りで、地域に溶け込んでいるように感じる。また、川西の集会所なども自然に馴染む造りになっている。



ひよし診療所



宮ノ越のゴミステーション



川西集会所

## 質の高い景観づくり

私は開田村役場時代に仕事で景観づくりに携わっていた時期が結構長く、仕事を離れても景観づくりには強い関心を持っている。今でもドライブや旅行などで出掛けた時など、気になる風景や建物、看板などがあるとすぐ車を止めてカメラに収めることにしている。

左の写真は以前、中津川へ行った際に山口の国道沿いで見かけたバス停である。とかくバス停やゴミステーションなどは簡易に安く造られてしまうのが一般的である。が、このバス停は洗練された民家風のデザインに加え、建築資材は地元で縁の深いものを使用するなど、その質の高さに驚いてしまう。本当に建物が美しく、バスを待つ利用者にとっても快適で潤いを感じられることだろうと思う。

ちなみに木材は岐阜県産の間伐材を使用し、床には同県の蛭川石を使用している。



中津川市山口にあるバス停

もう1枚は伊那市高遠町で撮影したもの。民家の写真ではない。よく見るとおなじみのロゴの入った看板が分かるかと思うが、八十二銀行の建物だ。なぜこのような造りになったのか。

桜で有名な高遠町は、木曽町と同様に「日本で最も美しい村連合」に加盟し、景観を生かした街並み整備に力を入れている。市街地には城下町の風情が漂う伝統的な建物が軒を連ねる。そのような中で銀行側も建物を建築するにあたり、景観形成住民協定に従ってこのような和風の建物にしたものと思われる。行政や民間企業、住民が景観づくりに対する理解を深め連携して取り組んで行くことが重要だと痛感させられた。



伊那市高遠町にある八十二銀行

## はりきりご長寿列伝

ほしの せつこ  
星野 節子 さん (82歳・木曾町三岳) ⑩

このコーナーでは高齢にもかかわらず今なお元気に仕事をしている人、自分の趣味に専念している人など元気あふれるお年寄りを紹介しています。今回は木曾町三岳の星野節子さんです。なお、この様子は7月20日、NHK テレビのイブニング信州で放映されました。



星野 節子 さん

### グルメで楽しく働くことが健康の源 ～朴葉巻き作りで大忙し～

みたけグルメ工房（西尾礼子組合長）の朝は早い。通常は朝6時半過ぎから仕事を始めるが、朴葉巻きの時期だけは、朝5時過ぎにはみんな集まり作業に取りかかる。切り餅を作ったり、



朴葉巻きを作る星野さん

コロッケを揚げたり、弁当やおにぎりを作ったりと様々なものを手掛けている。特に6月から7月初めにかけては朴葉巻き作りが最盛期を迎えるため、一年のうちで最も忙しくなる。朴葉巻きは一日600から700個余りを作るが、小豆を煮てあんこを作ったり、重さを計った米粉の生地にあんこを包んだり、それを朴の葉っぱに包んだり、蒸し器で蒸したり、話しかけるのも気が引けるほどの忙しさだ。

70代を中心に10人余りの婦人らが働いているが、中でも一番の年上で頑張っているのが星野節子さんだ。11月に誕生日が来ると83歳になる。

木曾の初夏の味として地元をはじめ、観光客などに人気が高い朴葉巻き。星野さんは全ての工程を器用にこなしていくが、「あんこと米粉の相性が合わないとなりにくい。一番神経を使う」と朴葉巻き作りの難しさも口にする。今まで寿司屋や学校、休暇村などで調理員として長く働き、グルメで働くようになってからすでに10数年。「趣味は何もない」と笑って話す星野さん。

健康の秘訣は「ボーッとしているとボケてしまう。ここ（グルメ工房）に来て働いていることが健康の源」ときっぱり。元気のうちはいつまでもみんなと楽しくグルメで働くつもりだ。

## 私の本棚

『ビジネスマンの人生を激変させるしなやかな心の作り方』

～カリスマ整体師が心のストレッチの極意を伝授する～

（齋藤仁重 著・セルバ出版）



「私が日ごろお世話になっている」作家の志賀内泰弘先生の出版セミナーを受講した縁で、ようやく本を上梓しました」と標記の本を安曇野市在住の齋藤仁重さんから送っていただきました。

整体師をされている齋藤さんは、本出版の夢を諦めず10年余りにわたってコツコツと文章を磨き、本のネタを集めるなど努力を重ねて来ました。

「ストレスを受け流していく秘訣は、心をストレッチして、いつも柔軟にしておくこと。それができればいつでもストレスを上手に受け流していくことができる」。整体の仕事を通じて学んだ「秘伝」を数多く紹介しています。



## 編集後記

今年は本当にさまざまな自然災害や考えられない事件、事故が続いています。今回の新型コロナウイルスも同様で、世界的な感染拡大は全く想像を絶します。国内でも依然として感染拡大が収まらず、日々の暮らしや経済に大きな影響が生じています。

自分たちの地域づくり活動も「三密」を避けなければならず、今年は草刈りと歩道の美化活動以外は全くできていません。一日も早くコロナが終息し「当たり前」の日常が戻ることを願うのみです。



編集・発行者： 大目 富美雄（おおめ ふみお）

〒397-0301 長野県木曾郡木曾町開田高原末川 5190 番地

電話& FAX 0264-42-3661 携帯 090-2526-7156

E-mail info@ome-fumio.com